

研究活動報告

日本人口学会2009年度・第2回東日本地域部会

日本人口学会の2009年度第2回東日本地域部会が2010年3月14日(日)、早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区)において開催された。「東アジアの超少子化と少子化対策」をテーマとする5つの報告のあと、2人の討論者からのコメントを受けて全体での討論が行われた。年度末の日曜日でありながら、報告者を含めて25人の参加があった。また、全体での討論についても予定時間を超過した活発な議論が交わされ、参加者の関心の高さがうかがわれた。

座長・組織者、討論者、報告タイトル・報告者は下記の通りである。

座長・組織者 阿部隆(日本女子大学)、西岡八郎(国立社会保障・人口問題研究所)

討論者 小島宏(早稲田大学)、鈴木透(国立社会保障・人口問題研究所)

報告タイトル・報告者

1. 東アジアの少子化 ―その人口学的接近― 鈴木透(国立社会保障・人口問題研究所)
2. 結婚行動・出生行動からみた韓国の少子化要因と少子化対策 高安雄一(筑波大学)
3. 保育サービスへの経済的支援に関する政策動向 ―韓国と台湾の比較―
小島克久(国立社会保障・人口問題研究所)
4. シンガポールにおける少子化要因の分析 ―少子化対策への含意―
菅桂太(国立社会保障・人口問題研究所)
5. 東アジア・欧米諸国における同棲とその関連要因 ―少子化対策への含意―
小島宏(早稲田大学)
(菅 桂太記)

日本地理学会2010年春季学術大会

日本地理学会2010年春季学術大会は、3月27日(土)・28日(日)、法政大学(東京都千代田区)において開催され、多数の研究報告・ポスター発表があった。近年、日本地理学会においては地理学の普及啓蒙を目的としてシンポジウムが多く企画される傾向があるが、今回も9つのシンポジウムがあり、うち7つは会員以外の参加も可能な公開の形で行われた。公開シンポジウムの一つとして企画された「地理学における統計の利用と今後の課題 ―「統計」をめぐる官・学の連携をめざして―」には、各分野から多くの参加者があり、統計分析への世間的関心の高さが窺われた。文字どおり官・学をはじめとした様々な立場から、個票データを含めた統計利用等に関して多岐にわたる意見交換がなされ、有意義なシンポジウムであった。特に今年は国勢調査年に当たることもあり、質疑応答では調査のあり方やスタンスなどについて、基調講演を行った総務省統計局の川崎茂局長に多数の質問や意見が寄せられた。

本シンポジウムは、阿部隆・日本女子大学教授、井上孝・青山学院大学教授、大林千一・帝京大学教授が座長を務めた。全部で2本の基調講演と5本の報告があったが、紙面の都合上、基調講演